

活動レポート

北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会幹事 橋本孝治

平成 26 年度の活動報告

1. はじめに

北方海域技術研究委員会では、平成 26 年度に 4 回の講演会と 9 回の幹事会を開催し、北海道周辺海域の持続的な開発・利用を目標に、海域を取り巻く諸問題について調査・議論を行ってきました。

以下に活動の概要を記載します。

表-1 講演会等の開催状況

H26.4.25	平成 26 年度 総会・特別講演会 会 場：かでの 2・7 1070 会議室 参加者：技術士会員 28 名、非会員 27 名
H26.7.25	平成 26 年度 講演会 会 場：かでの 2・7 710 会議室 参加者：技術士会員 16 名、非会員 15 名
H26.10.16	講演会「マリンサイエンスが拓く未来」 会 場：函館市国際水産・海洋総合 研究センター 参加者：技術士会員 34 名、非会員 47 名
H27.1.9	平成 26 年度 技術研究発表会 会 場：寒地土木研究所 1 階講堂 参加者：技術士会員 24 名、非会員 31 名

2. 平成 26 年度 総会・特別講演会

◆総会の概要

総会は、当会の大塚代表の挨拶を皮切りに、清野幹事を議長として選出し、各議案についての討議を行いました。討議事項としては、「北方海域技術研究委員会 規約改定」及び「平成 25 年度事業・収支状況報告」、「平成 26 年度事業計画・予算案」、「平成 26 年度幹事交代(報告)」があり、各議案別に討議され、すべての議案について承認されました。

また、本総会において幹事交代があり、幹事として河合孝治氏ならびに北川紀洋氏が新任しました。

◆特別講演会の概要

特別講演会では、講演 1「北海道における ICT 漁業に関する研究開発とその現状」と講演 2「港湾・海岸構造物の長寿命化について」の 2 件について講演をいただきました。

◆講演 1「北海道における ICT 漁業に関する研究開発とその現状」

北海道立総合研究機構水産研究本部中央水産試験場資源管理部資源管理グループ研究主任、山口浩志氏をお招きし、総務省戦略的情報通信研究開発推進制度(SCOPE)の支援を受けて、公立はこだて未来大学、東京農業大学、北海道大学等と共同で実施した ICT を活用した資源管理に関するシステム開発の事例についてご紹介頂きました。

◆講演 2「港湾・海岸構造物の長寿命化について」

北海道大学大学院工学研究院北方圏環境政策工学部門教授、横田弘氏をお招きし、「港湾・海岸構造物の維持管理に関する最近の動き」、「ライフサイクルマネジメントの意義」、「点検・診断の効率化と合理化」、「要求性能レベルの向上に対して」の 4 つの観点からお話し頂きました。

3. 平成 26 年度 講演会

◆講演会の概要

講演会では、講演 1「地球温暖化がもたらす海洋生態系へのインパクト ～過去・現在・未来～」と講演 2「漁業地域の防災を取り巻く状況 ～災害復旧、海岸法改正における新たな動き～」の 2 件について講演をいただきました。

◆講演 1「地球温暖化がもたらす海洋生態系へのインパクト ～過去・現在・未来～」

独立行政法人 海洋研究開発機構 地球環境観測

研究開発センター 海洋生態系動態変動研究グループ 主任技術研究員、木元克典氏を講師としてお招きし、過去の気象の記録と急激な温暖化、海洋酸性化の現状、低次海洋生態系への影響、将来の地球像について、ご講演頂きました。

◆講演 2「漁業地域の防災を取り巻く状況 ～災害復旧、海岸法改正における新たな動き～」

水産庁 漁港漁場整備部 防災漁村課 災害対策室長、石井馨氏を講師としてお招きし、災害復旧事業の概要、東日本大震災からの復旧状況、漁港・漁村の防災・減災対策、海岸法の一部改正等について、お話し頂きました。

4. 講演会「マリンサイエンスが拓く未来」

◆講演会の概要

道南技術士委員会との共催ならびに一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構、北海道開発局 函館開発建設部及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構の後援を得て、講演 3 件のほか、函館市国際水産・海洋総合研究センターの現地視察やパネルディスカッションの内容にて開催いたしました。

◆講演 1「IT 漁業の夜明け」

公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授ならびにマリン IT・ラボ 所長、和田雅昭氏を講師としてお招きし、IT 技術が果たす役割として、情報（魚群）の可視化、適時適量による漁業の効率化、資源管理等、幅広い分野への活用等についてお話し頂きました。

◆講演 2「噴火湾の海洋環境の特徴について」

北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 調査研究部管理増殖グループ 研究職員、佐藤政俊氏を講師としてお招きし、「何故、噴火湾では多種多様な生息環境が形成されているのか」について、噴火湾の海洋環境メカニズムを中心に、ご講演頂きました。

◆講演 3「産学官連携研究成果の産業化」

道南技術士委員会 代表 布村重樹氏を講師としてお招きし、主に「がごめ昆布産業クラスター化の取り組み」について、ご講演頂きました。

5. 平成 26 年度 技術研究発表会

◆技術研究発表会の概要

独立行政法人土木研究所寒地土木研究所との共催にて、講演 4 件を頂き開催いたしました。

◆講演 1「北海道南西日本海沿岸の磯焼け対策としてのコンブのロープ養殖について」

寒地土木研究所寒地水圏研究グループ水産土木チーム主任研究員、佐藤仁氏を講師としてお招きし、日本海沿岸で進められている磯焼け対策に関する現地実証試験等の成果や課題について、お話し頂きました。

◆講演 2「防波堤港内消波工の耐津波安定性について」

寒地土木研究所寒地水圏研究グループ寒冷沿岸域チーム研究員、森昌也氏を講師としてお招きし、今後の耐津波設計を行う際に必要となる防波堤港内消波工の安定性に関する模型実験結果等について、お話し頂きました。

◆講演 3「防波堤の信頼性設計における波浪特性と期待滑動量」

北日本港湾コンサルタント株式会社技術部解析室、佐藤典之氏を講師としてお招きし、波浪特性（碎波形態）を考慮した防波堤の期待活動量の計算手法等についてお話し頂きました。

◆講演 4「地層から解き明かす過去の津波履歴」

北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所資源環境部沿岸地質グループ主査、仁科健二氏を講師としてお招きし、これまで現地調査等にて蓄積した地質データをサンプルとして、津波堆積物の見分け方や年代の計測法等について、お話し頂きました。

6. おわりに

当研究委員会では、今後の 2 か年において、近年顕在化してきた地球規模の気候変化に起因して、これからの北海道の沿岸域に現れる可能性のある事象および環境変化と社会的影響について調査を行い、取り組むべき課題について提言することを主題として活動する計画です。引き続き当研究委員会へのご協力をお願い申し上げます。